第１０号

FSVnetニュース

連絡先
〒251-0051藤沢市白旗4-9-1～4F
Tel.0466－84－1762
fax0466－81－2816
E-mail:fsvnet@arts-k.com

発行／NPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク　発行者／森井　康夫　発行年月／２０１０年６月

一人がみんなのために
みんなが一人のために
大切なのは日頃のお付き合い

藤沢市総合防災訓練会場
（湘洋中学校）にて

災害に備えるには

藤沢災害救援ボランティアネットワーク
代表　森　井　康　夫

今、世界各地で起きている地震情報を見るにあたり、私たちの住む日本列島は四枚の岩盤の上にあり、いつ起きるかも知れない地震やその他の災害に備え、地域防災力を高めるには、個人や地域コミュニティ、NPO、民間事業者、放送メディア、行政などをはじめとして、多彩な関係者が協働してリスクに備えるという考え方が必要だと思います。

現在、藤沢市内13地区には250名のボランティアコーディネーターがいますが、全地域を支えるには1300名程にしたいと思っています。今年から情報部員を育成して、市内13地区に配置することにより、災害時には、正確で、新しく、分かりやすい情報提供者（情報コーディネーター）が必要だと思っています。災害は起きない方がいいと思っていますが、もし災害が起きてしまったら、“備えがあれば”という思いでいます。是非皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

就任のご挨拶

藤沢市保健福祉部
部長　渡　部　敏　夫

本年４月より保健福祉部長として就任いたしました渡部でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。日頃、本誌の保健福祉行政にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

昨年は、新型インフルエンザの世界大流行や、南米・中国での大規模な地震等が発生し、さらなる、安全・安心の体制整備の充実がもとめられております。藤沢市といたしましても、昨年に引き続き、地震等の大規模災害の発生に備えて藤沢市災害時要援護者避難支援プラン全体計画を策定し、各市民センター・公民館を軸として各地域の自主防災組織等に災害時要援護者の避難支援体制づくりをお願いしているところでございます。

会員の皆様には、日頃から災害救援ボランティアセンターの設置や運営にかかる訓練や災害救援ボランティアコーディネーター養成講座の開設など藤沢市社会福祉協議会とともに実施され災害に備えていただいているところですが、地域が進める災害時要援護者の避難支援体制づくりにおきましても、より一層のご協力を頂くことで、地域の安全・安心体制が図られるものと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、貴会及び会員各位の益々のご発展とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

（独）防災科学技術研究所(NIED)との協働事業について

防災科学技術研究所の研究グループ（災害リスク情報ぷらっとフォームプロジェクト・災害リスクガバナンス研究グループ）は災害に強い社会システムの構築に関する研究をしていますが、藤沢市においても協働でいくつかの事業を取り組んでいます。藤沢災害救援ボランティアネットワークもそれらの事業に参画し、様々な面から地域防災力の向上に大きく貢献しています。1、シナリオ型避難所運営ワークショップ検証から防災ドラマin藤沢では鵠沼中学校地区連絡協議会、鵠沼海岸五丁目町内会、天神町内会の皆さんにご協力いただきドラマの収録までを地域住民が参加したり、２、藤沢市南部浸水痕調査支援　３、科学研究費成果発表シンポジウム参加等の活動は、従来の防災組織の結成率を上げることや自主防災訓練以外の施策として地域防災力向上にとって大変貴重な経験となりました。

鵠沼中学校地区防災連絡協議会避難所運営ワークショップ検証に参加して

一昨年の鵠沼中学校を避難所としている町内会やマンション等9団体が参加して避難所運営に関するワークショップが行われてから、避難施設における様々な問題点を、それぞれの状況に応じたシーンとしてシナリオにストーリーとして現わされ、実際にドラマ仕立ての中に声優として参加したことは地域の防災リーダーとして大変意義あることでした。

まずワークショップではロールプレイ方式による様々な人の立場に立ち考える事の重要性を知ること。簡単な様で中々これが出来ない。様々な経験をすると、それを主体に考えるようになってしまい、人の立場で考える事が無くなってしまうので、自分を見直す良い経験となり、また、わずか15分のドラマでも多くの人の参加と協力がなければラジオドラマとして放送される事は出来ない。実際に被災体験がない人々が避難所に入り生活を共にすることの難しさをドラマ作りを通して学ぶ事が出来たのは、鵠沼中学校を避難所とする私たちにとって大きな力となりました。それ以後実際に避難施設を立ち上げる訓練を今年の3月28日に地域の防災担当者が119人参加して、避難施設に入る方法、避難者名簿の作り方、避難場所の設営、運営委員会の設立、防災拠点とのMCA無線での情報交換等初めて訓練を実施いたしました。また、9月には避難施設宿泊体験訓練を計画しています。まさに。行政と地域が一体となって取り組んでいく体制が出来てきました。坪川先生のご尽力の基に、ワークショップを行って以降大きな飛躍をしたことは偏に防災科学技術研究所の成果だと思っています。

収録されたラジオドラマ地震編のCD

実際に寝てみて個別の広さを確認する

鵠沼海岸五丁目　大型台風22号直撃！引地川氾濫

「会長、台風接近で引地川が氾濫するかも、町内会役員を緊急招集してくれ」こんな緊迫した呼び掛けから防災ドラマは始ります。当防災会発足から一年半、FSVのご指導で防災マップの作成作業のなか、この地区では、地震・津波災害よりも大雨による浸水被害に強い危機感があることがわかりました。そんな状況を踏まえ、シナリオを作成していただき、防災会メンバーを中心にラジオド

レディオ湘南における収録風景

＊　藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です　＊

神奈川県知事許可第955号
総合建築業
有限会社　森井工務店
〒251-0051藤沢市白幡4丁目9番１～１F号
電話　０４６６（81）３３０３
０４６６（81）２８１６

一般建築金物
株式会社　伊　藤　屋
本　社　〒251-0052　藤沢市藤沢１－１－１５
TEL0466(26)3721(代)　fax0466(22)2254
営業所　〒252-0815　藤沢市石川６－１８－５０
TEL0466(87)7800(代)　fax0466(87)7802

建築金物・建築資材・電動工具
ボールナット・釘・針金・砥石・刃物
家具・建築金物・シート・袋各種
仁　平
〒252-0815　藤沢市石川2-15-11
電話０４６６（８７）１５００(代)
FAX０４６６（８７）１５０２

ラマに挑戦しました。そこには何をやらなくてはいけないかなどのメンバーの役割が、また孤立している人への対応などが描かれ、我々が今後、取り組むべき課題が山のように示唆されていました。一番感じたのは、情報、危機感を共有して、一体となって対応できるかということでした。

現在2年半たち、まずは防災会のメンバーが、自らその意識を持ち、町内会全体に浸透させていきたいと思っております。

水防編のＣＤ

…… 次世代の浸水予測情報を目指して ……

水害痕跡調査……藤沢南部で実施

最先端のMPレーダー雨量情報を使用し、いつごろ、何処が、どの程度、浸水して危険になるのかを10分ごとに、1時間先まで、10m格子状で予測し、インターネットを通じリアルタイムでの予測や伝達のための研究を藤沢市南部で防災科学技術研究所(NIED)が行っています。

観測開始以来、最も大きな水害は2004年(平成16年)10月9日の台風22号によるものでした。この時、多くの箇所で、床上・床下浸水、道路冠水などが起こり、大きな被害が発生しました。この時の雨量情報を用いて、NIEDでは詳細な浸水計算を行い、当時の浸水の状況を明らかにしました。と同時に、このシュミレーション結果の検証が必要になりました。そこでＦＳＶネットが協力して、正確な浸水の高さの測量と検証を1月～3月までの3ヶ月間に40数か所で実施しました。

調査をしてみますと、水害から5年以上経っていますが、浸水後の後始末の苦労や家屋に残る臭いなど、被害の記憶は強く残っていました。浸水の深さは道路上0.10mから1.17mで、各地点の地盤の高さによって異なっており、都市特有のパッチ状の浸水域が多く見られました。これらパッチ状の浸水箇所は周辺に比べて凹地状になった地盤の低いところや、低地で多くの住宅が盛土している中にあって土台を高くしていなかった箇所、道路を流れる雨水が集まる交差点などでした。このため、浸水標高(海面からの高さ)も場所によって異なり、＋2.2mから＋12.1mに分布していることがわかりました。

これら測量された浸水標高は今後、同様な豪雨が発生した場合に、車や重要な家財をどの高さまで上げれば水害から免れられるのかの目安にしたり、深く浸水して危険な場所がどこに現れるかを知るのに役立ちます。また、地域の過去の災害情報を整理し共有して、今後の災害に備えることの大切さを調査を通して実感しました。

聞き取り調査で浸水位置を確認

測量調査の様子

藤沢災害救援ボランティアネットワーク(ＦＳＶnet)会員募集

藤沢災害救援ボランティアネットワークでは、会員を募集しています。

☆入会金　不要
☆会　費　年額　1口　1,000円　　団体会員　3口以上　　個人会員　1口以上
《皆様の入会をお待ちしています。》

☆お問い合わせ先
藤沢災害救援ボランティアネットワーク事務局　TEL0466－84－1762　E-mail:fsvnet@arts-k.com

＊　藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です　＊

安心の関東運輸局認定第625号
トランクルームのご用命は
有限会社　鈴木倉庫
電話　0120－34－１１１８
ダスキンメリーメイド藤沢南店
電話　0120－46－0770

総合アルミ建材
広瀬硝子建材株式会社
本社〒251-0032藤沢市片瀬4-14-6
業務配送センター
〒251-0032藤沢市片瀬2-16-29
電話　（０４６６）２２－６６０５
ＦＡＸ（０４６６）２３－６９９４

住んでよし　心豊かな木の住まい
木材・新建材・住宅機器
合資会社　佐々木材木店
〒251-0052　藤沢市藤沢1丁目7-18
電話（０４６６）２５－２５１１(代)
FAX（０４６６）２５－２５１５

地域コミュニティとの交流会

……柏崎市北条地区をたずねて……

防災のグリーンツーリズムは日頃のお付き合いを大事にして、いざと云う時に助け合える関係を作って行きましょうという主旨のもと、柏崎市の北条という地域を訪ねる機会をいただきました。2度の震災に遭った所とお聞きして伺った地域は、会う方々は元気で、将来に向かって、何か思いを持って活き活きしているように感じられました。それと、とても豊かな自然に包まれていて、ほっと出来る所の様であり、被害を乗り越えて今があることなど感じられない、穏やかな気持ちになれるくらい癒される地域でした。しかし、映像をもとに災害の時の報告をしていただいた時は、皆さんの今日までのご苦労が言葉では表せない大変なものだったと思いました。その後、コミュニティでは、地域内にある様々な課題を、地域の人々と共に積極的な解決策を探る仕組みづくりを、公民館活動に取り入れ再生に向け活動を進めていられる事に驚きました。

暖かな心と、きめ細やかな計画、市民と接する地域リーダーの役割。また継続的に行うために、ＮＰＯ活動組織を設立しコミュニティビジネスを展開するなど、自治する責任、小さな政府をめざしていることが伝わって来ました。

この機会にお訪ねできた事は、本当に良かったと思っております。これからもよろしくお付き合いをお願いいたします。

出張出前講座

★湘南大庭地区防災リーダーの集い

防災リーダー相互の連携を深め、防災情報を共有することを目的として、昨年に続き湘南大庭地区自治会連合会と防災協議会の共催により、平成21年9月25日(金)湘南大庭市民センターで「防災リーダーの集い」が開催されました。

当日は、ＦＳＶの森井代表、水島副代表による「地域における防災リーダーの役割」と題して、各地域の防災拠点毎にボランティアを受け入れるためのサテライトセンターを立ち上げる事の必要性と、ボランティアコーディネターには、地域の防災リーダーが最適であるとの話がありました。

地域内には170名以上の防災リーダーがおりますが、災害救援ボランティアコーディネーターは10数名と少なく、その養成が当面の課題とのご指摘をいただきました。

当日の参加者は約70名ですたが、コーディネーター養成講座の内容や開設希望の質問が多数出され、出前講座の開設も可能であるとの説明もあり盛会裏に終了しました。

★災害救援ボランティア・コーディネター養成講座（初級編）

平成22年1月24日(日)と2月7日(日)の2日間に渡り、湘南大庭地区自治会連合会と防災協議会の共催により開催されました。「防災リーダーの集い」でも紹介したとおり、当地区では防災リーダー170名に対してコーディネーターが少ないのが課題でしたが、その解消に向けて両団体が素早く対応し本講座が開催されました。今回は40名の方が受講され、災害救援ボランティアセンターの立ち上げから運営、被災者対応、ボランティア対応の方法などの基本を中心にセミナーや実習を交え学習しました。

従来のコーディネーターと今回の講座修了者とで、湘南大庭地区のサテライトセンターを立ち上げる準備に入りたいと考えています。

09年度首都圏統一帰宅困難者対応訓練
ＦＳＶネットは大和・藤沢コースのエイドステーション運営を支援

2009年9月26日(土)快晴のもと、藤沢・大和コースには約600名が参加して帰宅困難者対応訓練が実施された。

第５ＡＳ　六会行政センターでの足湯サービス

ＦＳＶネットは大和・藤沢コースに設けられたエイドステーション7か所の内6か所に26名のボランティアを派遣し運営を支援した。特に六会市民センターに設けたエイドステーションでは、足湯のサービスと被災地の写真パネル展示を行い、参加者からは、疲れが癒されたと大変好評であった。

編集後記

いよいよ災害時要援護者避難支援名簿提供申し出アンケートに向けて動き出した。要援護者が希望すれば住んでいる自治会・町内会に情報が提供される。これは画期的なことで、提供された町内会・自治会は援護システムをいやがうえでも作らなければならない。やらなければ防災力格差はさらに広がってしまう。助かる命、助からない命。それは各町内会に委ねられている。（T.O）